

としょしつ で ものがたり るい よ
図書室が出てくる物語(9類)を読んでもみよう

今月は9類から『図書室が出てくる本』を紹介します。
 ここで紹介しきれなかったものは図書室に展示しました。
 ぜひ読んでみてください。
 絵本から長編小説まで、たくさんありますよ！

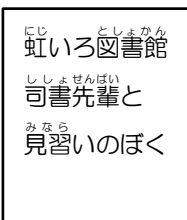


みすずちゃん



「としょかんライオン」

ミシェル・ヌードセン作
 ケビン・ホークス絵 福本友美子訳
 岩崎書店 NDC930



「虹いろ図書館 司書先輩と見習いのぼく」

櫻井とりお著 河出書房新社 NDC913



「貸出禁止の本をすくえ！」

アラン・グラッツ著 ないとうふみこ訳
 ほるぷ出版 NDC933

きまりを守ることは大切なことです。でも、その大切なきまりを守れないこともあるんです。何が大切で何を優先すべきか、走りだしたメリウエザーさん、ライオンを探しまわるマクビーさん、登場するすべての人から、たくさんの愛を感じ取ってください。

表紙にひかれて手に取る人も多いのでは？へびおとこの続編(4作目)ですが、エピソードとしては1巻の前、イヌガミさんが図書館に来たばかりの頃のお話です。登場人物を取り巻く環境がとても丁寧に描かれていて、まるで自分もその場にいるような気持ちで読めます。

自分の好きな本が、ある日突然貸出禁止になってしまったら？司書としてではなく、お母さんの気持ちになって、主人公を応援しながら読みました。この物語の中には、たくさんの本が出てきます。「クロードアの秘密」は学校の図書室にもありますよ。



「ともだちはしおりのこぶた」

真山みな子作 山西ゲンイチ絵
 金の星社 NDC913



「お話のたきぎをあつめる人」

ローレンティン妃&パウル・ヴァン・ローン作
 西村由美訳 佐竹美保絵 徳間書店
 NDC949



「しずかな魔女」

市川朔久子 作 平澤朋子絵
 岩崎書店 NDC913

東溟っ子もだいすきな本のしおり。このおはなしに出てくるしおりは、なんと動きます。そしてしゃべります。こんなしおりといっしょに本を読んだら、きっと楽しいだろうな。絵本より少し長いおはなしですが、すべてのページに元気なさし絵が載っていますよ。低学年におすすめの1冊です。

二人の作者が交換日記のように少しずつ交代で書き進めたおはなしです。読んでみると、本の世界を旅しているような、わくわくした気持ちを味わえます。「おはなしがあるということは、ひとりぼっちじゃないということ。図書館は友だちを作る場所」カワッテールおじいちゃんの言葉が胸に刺さります。

「しずかな魔女」というタイトルは、この物語の主人公が作中に読む本のタイトルでもあります。物語の中にもう一つの物語が組み込まれている作品は、「トムと3時の小人(たかどのほうこ作:ポプラ社)を思い出す人もいるかもしれませんね。全く異なる作品ですが、偶然にも、絵を書いた人が同じです。



司書が実際に読んでみて、思ったことや注目してもらいたいポイントを書きました。みなさんの意見や感想も教えてくれたらうれしいです。一緒に本の話を楽しみましょう！

※著作権の都合上、一部書影は掲載しておりません。